

平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

たくましく自立・しっかり自律し、他者理解と協同の心をもって社会に参加・貢献する力を伸ばせる学校

1. 地域との連携を緊密に図り、地域から愛される「明るく開かれた学校」「きれいな学校」「行きたい学校」をめざす。
2. 厳しくも、様々な背景を理解して寄り添う生徒指導を通して、基本的な生活習慣と高い規範意識を醸成する。
3. 「確かな学力」を育むため、「基礎学力の充実」と「主体的・対話的で深い学び」のある授業改善に取り組む。
4. 中学校や外部人材・機関との連携を深めて教育相談体制を充実させるとともに、キャリア教育を推進し、中途退学の防止に努める。
5. 全教職員が同じ想いのもとに、生徒の目標実現や課題解決のための様々な工夫と教育内容の充実を図り、生徒・教職員がともに充実感や達成感を味わうことのできる学校をめざす。

2 中期的目標

- 1 すべての生徒が安心して学びを深められるよう教職員が研修を重ね、「主体的・対話的で深い学び」のある授業改善を推進する。
 - (1) 小グループでの学習を中心に、生徒が主体的に、そして共に学び合える授業づくりと、質の高い学びに繋がる教材づくりを通して、確かな学力を育成する。
 - ア 授業公開の活性化、教員間での相互授業見学、公開授業と研究協議を通して、教員の授業力向上と生徒が主体的に学び合う授業改善に取り組む。
 - イ 少人数展開授業を通して、きめ細かい指導を充実させ、基礎学力の定着と学ぶ意欲の向上を図る。
 - ※生徒授業アンケートで「授業内容に興味・関心を持てる」を（平成 29 年度 77%）、2020 年度には 83%をめざす。
- 2 全ての教育活動を通して規範意識と人権尊重の心を醸成し、安全・安心な学校づくりを推進する。
 - (1) 基本的な生活習慣を確立し、欠席・遅刻や問題行動の防止に努める。
 - ア 日常のきめ細かな指導や家庭連絡を通し、基本的な生活習慣を確立し欠席・遅刻の防止を図るとともに、教職員が範を示して挨拶する態度を育む。
 - ※生活習慣の改善と中退防止の観点から、欠席・遅刻者数を 3 年間毎年、前年度以下とする。
 - イ 頭髪・身だしなみ・登下校マナー等の指導の徹底に向けた取組みを継続して進め、地域に信頼される学校を確立する。
 - ウ 生徒指導上の課題に対しては、すべての教職員が適切かつ毅然とした指導を行うよう、指導方法における教職員の共通認識を深め、チームワークを活かして対応する。
 - (2) 課題の背景をつかみ取り、生徒に寄り添ったきめ細かい支援を通して、不登校や中途退学を防止する。
 - ア 高校生活支援カードを活用するとともに、家庭連携、中高連携をさらに深めて、課題を教職員が共有し、修学支援委員会を中心に「個別の教育支援計画」、「個別の指導計画」を組織的に作成して支援にあたる。
 - イ 障がいのある生徒、外国にルーツのある生徒など、様々な背景を理解し、寄り添いながら豊かな学校生活を送ることができるよう支援する。
 - ウ 外部人材、外部機関との連携を深め、不登校や中途退学の防止に注力する。
 - ※生徒向け学校教育自己診断の入学満足度（平成 29 年度 57%）を、2020 年度には 72%をめざす。
 - ※中退率・生徒指導事案数を 3 年間毎年、前年度以下とする。
 - (3) 自尊感情を高め、人権を尊重する態度を育み、人間関係づくりを推進する。
 - ア HR や総合的な学習の時間、学年行事等で仲間づくり・他者理解を深める取組を計画的に実施する。
 - イ 学校いじめ防止基本方針に基づいた校内体制と教育相談の充実をめざし、生徒の小さな変化に素早く気づき対応ができるセーフティーネットを、よりきめ細かなものとする。
 - (4) 教職員の健康増進に努め、活力ある教育環境づくりを進める。
 - ア 業務の効率化、分掌間連携等を進め、長時間勤務の縮減をめざす。
- 3 生徒自らが進路目標を掲げ努力し、自己実現ができる支援・指導体制を充実させる。
 - (1) 学校生活全般を通し、自己発見を促すとともに、勤労観・職業観・自己肯定感を養い、早期に進路目標と展望をもたせる指導を行う。
 - ア 進路指導部を中心に、入学時より 3 年間を見通した計画的・系統的なキャリア教育を実施する。
 - イ 授業、学校行事・HR 活動・生徒会活動・部活動等、すべての教育活動を「自立した社会人を育てる」という観点から組み立てる。
 - (2) 多様な進路希望に応じた学習ができる教育環境を充実させる。
 - ア 基礎・基本の学力定着を図る「朝学」、大学等進学に備える「ゆめ学」、受験・就職に繋がる資格取得に向けた講習や取り組みを実施する。
 - ※卒業後に自己実現のための準備に備えるもの以外の進路未決定率（平成 29 年度 5%）を、2020 年度には 3%以下をめざす。また、学校斡旋就職希望者の割合（平成 29 年度 68%）を、2020 年度 75%以上をめざす。
- 4 部活動・学校行事などを活性化させるよう取り組みを進め、元気あふれる元気な学校にする。
 - (1) 部活動や生徒会活動への参加を呼びかけ、活動を通して豊かな人間性を育成する。
 - ア 部活動や生徒会活動等を通じて、責任感、連帯感、達成感、自己有用感を醸成し、集団や学校への帰属意識を高める。
 - イ 地域の関係諸機関との連携を密にし、広報活動にも積極的に取り組み、地域に貢献できる学校をめざす。
 - ※生徒向け学校教育自己診断の学校行事満足度を（平成 29 年度 55%）毎年 5%引き上げ、2020 年度には 70%をめざす。
 - ※部活動加入率を 3 年間毎年、前年度以上とする。（平成 29 年度 29%）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 30 年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見
【学習指導等】 ・今年度の重点目標として授業規律を大切にし、安心して学びやすい授業環境を整えるよう取り組んだことで、生徒向け学校教育自己診断「授業では積極的に学ぼうと思うような環境が保たれている」が 59.1%（昨年度比 +10.8 ポイント）であった。	第 1 回（6/26） ○経営計画の策定方針について ・経営計画や学校方針は校長先生から一方的に押し付けるのではなく、先生方がやりたいものを引き出して、それをやっていると、それだけで活性化していくので、来年度の計画にはそういうところを出していただきたい。

府立勝山高等学校

<p>・年次進行と生徒実態に合わせ、小グループで生徒同士が主体的に学び合う授業づくりを推進するよう取り組んだ。「授業はわかりやすく、内容に満足できる」に肯定的な回答は 70.1% (昨年度比+15.5 ポイント) であり、「教え方に工夫をしている先生が多い」に肯定的な回答は 72.8% (昨年度比+7.0 ポイント) となり、ともに昨年度から改善した。</p> <p>・「先生は学習で自分が努力したことを認めてくれる」が 78.1% (昨年度比+10.3 ポイント)、評価の仕方や基準について事前に示されている」が 83.3% (昨年度比+8.3 ポイント)、「学習の評価については納得できる」が 78.0% (昨年度比+6.1 ポイント) と改善した。</p> <p>・「授業などでビデオ、スライドなどの視聴覚機器やコンピュータなどを活用している」が 72.3% (昨年度比+5.7 ポイント)、3 年生では 86.0% であり、年次進行的に活用度が高い。ICT を活用した分かりやすい授業をさらに進めたい。</p> <p>【生徒指導等】</p> <p>・「先生は生徒の意見を聞いてくれる」に肯定的な回答は、1 年生が 64.8%、2 年生が 67.0% (昨年度 1 年生比+16.1 ポイント)、3 年生が 73.1% (昨年度 2 年生比+16.3 ポイント)、全体では 71.3% (昨年度比+16.6 ポイント) であり、いずれの学年も大幅に改善している。生徒の実態把握、背景の理解と教職員の情報共有、対話による丁寧な指導、家庭との連携などに取り組んだ結果と思われる。</p> <p>・「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談できる先生がいる」に肯定的な回答が、1 年生が 45.4%、2 年生が 56.1% (昨年度 1 年生比+9.9 ポイント)、3 年生で 76.0% (昨年度 2 年生比+21.3 ポイント)、全体では 61.2% (昨年度比+10.9 ポイント) であり、2 年及び 3 年は年次進行で改善するとともに、昨年度の相当学年を上回ったが、1 年は昨年度の相当学年を下回り、50%に届かなかった。緊密に学年教員が連携し取り組みを進めているが、教育相談の更なる充実に努めたい。</p> <p>【進路指導等】</p> <p>・3 年間を見通したキャリア教育に取り組んでいるが、「将来の進路や生き方について考える機会がある」に肯定的な回答は、1 年生が 58.9% (昨年度比+0.8 ポイント)、2 年生が 66.3% (同-7.6 ポイント)、3 年生が 85.1% (同+19.9 ポイント)、全体では 71.7% (同+5.2 ポイント) であった。また、「学校は進路についての情報を知らせてくれる。」に肯定的な回答は、1 年生が 68.2% (昨年度比+15.8 ポイント)、2 年生が 66.3% (同-5.5 ポイント)、3 年生が 86.0% (同+13.7 ポイント)、全体では 76.0% (同+8.8 ポイント) であり、進路指導面で大きく後退した昨年度から回復し、一昨年度より高ポイントになったが、学年によって取り組みの効果に差があり、生徒の自己実現を支えるための改善を急がなければならない。</p>	<p>○生徒支援、中退防止について</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの生徒が壁を乗り越えていくことが自立につながっていくと思うので、難しいと思うがその支援をお願いする。 中退を減らすために、学校に行けばこういう楽しみがあるというものを具体的に示すことができるようにしてほしい。 <p>○キャリア教育、進路指導について</p> <ul style="list-style-type: none"> たくさんの生徒に職場体験に来てほしいという企業も少なくないので、インターンシップを 1 回きりにするのではなく、職場体験させてもらえないか積極的に聞いてもらいたい。 保育関係の進路を考えている生徒を実習で受け入れてくれる施設が隣にあり、市役所や保育所の方とつなげていくことができるので、声を掛けてください。 <p>第 2 回 (11/29)</p> <p>○経営計画の重点目標と指導内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> かなり多くのことを行っているが故に、特に何を重点的に頑張るのが分からない。遅刻・欠席、授業への取組、進路の 3 点を重点課題として取り組んでいただけるといい。朝活で取り組む内容や、遅刻・欠席の問題について改善に向けた考えがあれば教えてほしい。 遅刻・欠席について、キャリア教育とセットで指導されたいのではないかと。 <p>○地域連携と広報活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> クリーンアップ地域清掃を行っていることなど、もっと地域へアピールしてはどうか。 学校での取組内容に中高の接続があれば、ぶれない指導で、子どもたちにも習慣化していくのではないかと。 良くなっていることをどんどんアピールして、勝山高校の子どもたちと地域の満足度を上げていくと、子どもたちも少しずつ色々なところで頑張ってくれるのではないかと。 <p>第 3 回 (2/20)</p> <p>○学校教育自己診断について</p> <ul style="list-style-type: none"> 肯定率が改善した理由、更に向上させるための方法など、アンケート分析結果についてターゲットを絞って示してほしい。 診断結果が例年あまり変わっていない事項は、分掌・組織の見なおしが必要ではないか。 定期的な検討会議を開き、議論した内容が学年・教科で共有されることで、もっと変わっていけるのではないかと。 教職員の団結が重要で、機能的に同僚性を発揮することで、生徒も学校も変わっていく。 <p>○中退防止について</p> <ul style="list-style-type: none"> 3 年生が一人の脱落者もなく教育課程を修了できたのは、どのような取組みが成果に結びついたか分析を進めてほしい。 <p>○自己実現について</p> <ul style="list-style-type: none"> 夢学やインターンシップを 1 年次から取り入れて、早期に将来の展望を抱かせるよう取り組んでもらいたい。 <p>○平成 31 年度「学校運営に関する基本的な方針」について</p> <ul style="list-style-type: none"> 人権教育、生徒指導について、今年度の総括を生かして、どのように年間計画を進めるかを議論してほしい。 中期的目標が分かりやすくなったと感じる。最後に書かれているが、教職員の力を集めて工夫改善を進めていく・・・本当にこれに尽きると思う。 <p>※平成 31 年度「学校運営に関する基本的な方針」を承認いただいた。</p>
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 「安心して学びの深い学び」のある授業改善を推進する。	(1) 安心して学べる環境づくりと、小グループでの学習を中心に、生徒が主体的に考え、共に学び合う関係を通して、確かな学力を育むことをめざす。 ア 授業公開の活性化、教員間での相互授業見学、公開授業を実施し、教員の授業力向上と生徒同士が主体的に学び合う授業改善に取り組む。	ア・授業規律を堅持し、安心して学びやすい授業環境を整える。 ・1 年次は授業規律の確立に注力しつつ、小グループで学ぶ機会も積極的に取り入れる。年次進行と生徒実態に合わせ、小グループで生徒同士が主体的に学び合う授業づくりを押し進める。 ・基礎・基本の習得と発展的課題へのチャレンジを通し、一人一人の主体的・対話的な学びにつなげる授業デザインを追求する。 ・教員数人でユニットを構成し、各ユニットで授業力向上に係る研修、授業見学、公開授業、研究協議等を実施し、成果を共有する。 ・全教員が授業を公開し、相互に学び合い、生徒の学びの状況を見取ることができる力をつけ、一人残らず学びのある授業をめざす。 ・ICT 機器を積極的に活用し、分かりやすい授業づくりを推進する。 ・公開授業週間を通して地域の中学校教員や学校協議会委員等に公開し意見を授業改善に活かすとともに公開授業、研究協議会を開催し、生徒も教職員も学び合う学校をめざす。	ア・生徒向け学校教育自己診断「授業では積極的に学ぼうと思うような環境が保たれている」を前年度以上。(H29 年度 48.3%) ・生徒向け学校教育自己診断「教え方に工夫をしている」69% (H29 年度 66%) ・ユニットによる研修等を年間 5 回以上実施する。 ・生徒授業アンケートで「授業内容に興味・関心を持てる」79%をめざす。(H29 年度 77%) ・生徒向け学校教育自己診断「他の先生が授業を見学に来ることがある」を前年度以上。(H29 年度 81.7%) ・生徒向け学校教育自己診断「授業で視聴覚機器やコンピュータなどを活用している」を前年度以上。(H29 年度 66.6%)	ア・生徒向け学校教育自己診断「授業では積極的に学ぼうと思うような環境が保たれている」が 59.1%で、授業規律の堅持、安心して学べる授業環境づくりの改善をさらに進める機軸をつくった。(○) ・学校教育自己診断「教え方に工夫をしている」は 72.8%で生徒が分かりやすい授業づくりを進めている。(○) ・時間割が固定できた 2 学期以降のユニット編成となったため、延べ 16 回、平均 1.5 回に留まった。(△) ・生徒授業アンケート「授業内容に興味・関心を持てる」の肯定率は 75.1% (昨年度比-2 ポイント)であった。(△) ・ユニット研修や個々の授業見学を通して、授業改善に取り組んだ結果、学校教育自己診断「他の先生が授業を見学に来ることがある」は 83.4%であった。(○) ・学校教育自己診断「授業で視聴覚機器やコンピュータなどを活用している」は 72.3%であり、さらに生徒にとって分かりやすい授業づくりを進める。(○)

府立勝山高等学校

<p>2 全ての教育活動を通して規範意識と人権尊重の心を醸成し、安全・安心な学校づくりを推進する</p>	<p>(1) 基本的な生活習慣を確立し、欠席・遅刻や問題行動の防止に努める。 ア 基本的な生活習慣の確立と挨拶する態度を育む。</p> <p>(2) 課題の背景をつかみ取り、生徒に寄り添ったきめ細かい支援を通して、不登校や中途退学を防止する。 ア 家庭連携、中高連携を深め、課題を共有し、「個別の教育支援計画」等を組織的に作成する。</p> <p>イ 障がいのある生徒、外国にルーツのある生徒など、様々な背景を理解し、支援する。</p> <p>ウ 外部人材、外部機関との連携を深め、不登校や中途退学を防止する。</p> <p>(4) 教職員の健康増進に努める。 ア 業務の効率化、分掌間連携等を進め、長時間勤務の縮減をめざす。</p>	<p>(1) ア・生徒の実態把握に努め、遅刻・欠席の原因や背景を探り、対話による丁寧な指導、家庭との連携、必要な支援を通じて、相互信頼を深め、遅刻・欠席を防止する。 ・生徒自治会や教員による朝のあいさつ運動など、生徒同士や教員とコミュニケーションがとりやすい環境をつくる。</p> <p>(2) ア・高校生活支援カードを活用するとともに、家庭連携、中高連携をさらに深めて、課題を教職員が共有し、修学支援委員会を中心に「個別の教育支援計画」、「個別の指導計画」を組織的に作成して支援にあたる。 ・生徒一人ひとりとじっくり向き合い、生徒の状況を把握し、問題解決に向けた迅速な対応に努める。 ・学年団で情報共有と意思統一を図り、協力して生徒支援に臨めるよう、学年会を月に2回以上開催する。</p> <p>イ・授業、ホームルームや学校行事など、教育活動を通じて障がい理解を深めるとともに、配慮を要する生徒の支援・指導に向けた教職員の資質向上に取り組む。</p> <p>ウ・不登校の兆候があり、中途退学が懸念される生徒について、家庭や中学校との連携を通して指導・支援に当たるとともに、必要に応じて外部人材、外部機関との連携を深め、中退防止に努める。</p> <p>(4) ア・業務の効率化、分掌間連携・協力を進めるとともに、全校一斉退庁の履行等により、長時間勤務を縮減し、活力ある教育環境づくりを進める。</p>	<p>(1) ア・欠席者数、遅刻者数を昨年度以下とすることをめざす。 ・生徒向け学校教育自己診断の生徒指導充実度 60%をめざす (H29年度 55%) ・生徒向け学校教育自己診断の入学満足度 63%をめざす (H29年度 57%)</p> <p>(2) ア・中学校訪問を延べ150回以上実施し、密接に連携する。 ・生徒・保護者向け学校教育自己診断の教育相談満足度 70% (H29年度 66%) ・教職員向け学校教育自己診断の教育相談体制の整備 85%以上 (H29年度 86%) ・学年会議を月2回以上開催し生徒支援のための情報共有を緊密にする。</p> <p>イ・生徒支援に係るケース会議等の開催増 ・学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」の肯定評価を高める。 (H29年度 53%)</p> <p>ウ・外部人材と連携したケース会議を5回以上開催する。 ・中退率を前年度以下とする。</p> <p>(4) ア・教職員の時間外労働時間を前年度以下とする。</p>	<p>(1) ア・あらゆる機会を通して基本的な生活習慣と学校生活についての指導・啓発を行うとともに、生活背景を理解し生徒個々への支援を行ってきたが、遅刻率は昨年度比+13%、欠席率は-4%である。(△) ・学校教育自己診断の生徒指導充実度は64.6%で昨年度比+9.8ポイントあった。(○) ・学校教育自己診断の入学満足度は64.6%で昨年度比+8ポイントであった。(○)</p> <p>(2) ア・生徒支援のための連携として178回の中学校訪問を行った。(○) ・生徒・保護者向け学校教育自己診断における教育相談満足度73.8%(○) ・教職員向け学校教育自己診断の教育相談体制の整備77.8%で、十分にできていないという問題意識を持つ教職員が増加(△) ・学年会議および修学支援委員会を毎週開催し、生徒状況を確認し、必要に応じてスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと連携している。(○)</p> <p>イ・障がい、日本語支援、困難な生活背景など様々な課題についてのケース会議を行い、生徒支援につなげている。(○) ・すべての教育活動において人権を大切にすることを教職員が持って取り組むことをめざしている。学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」67.9%(○) ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと連携したケース会議を11回開催。(○) ・生徒個々に対するきめ細かい指導と支援を行ったが、中退率は昨年度を上回ることとなった。(△)</p> <p>(4) ア・教職員の連携促進、意識改善等により、月80時間を超えとなった教員数は昨年度の半数以下であり、時間外在校時間も昨年度を下回っている。(○)</p>
<p>3 生徒自らが進路目標を掲げ努力し、自己実現ができる 支援・指導体制を充実させる。</p>	<p>(1) 学校生活全般を通し、自己発見を促し、勤労観・職業観・自己肯定観を養い、早期に進路目標と展望をもたせる指導を行う。 ア 進路指導部を中心に、入学時より3年間を見通した計画的・系統的なキャリア教育を実施する。</p> <p>(2) 多様な進路希望に応じた学習ができる環境の充実。 ア 基礎・基本の学力定着を図る「朝学」、大学等進学に備える「ゆめ学」、受験・就職に繋がる資格取得に向けた講習や取組を実施する。</p>	<p>(1) ア・進路指導部と各学年の協力のもと、自己肯定観を養う取り組み、職業観、勤労観を養う学習プログラム、体験学習等を充実させ、3年間で系統立てたキャリア教育を実践する。 ・企業経営者や大学等の講師による講演や懇談を通し、現実的な職業観や進路実現のための方法を学ぶ機会を多く設ける。 ・進学希望者に向けては、進学資金計画、奨学金制度について保護者を含めて丁寧に説明する機会をつくる。</p> <p>(2) ア・基礎・基本の学力定着を図る「朝学」、大学等進学に備える「ゆめ学」、受験・就職に繋がる資格取得に向けた講習や取組を実施する。 ・支援を要する生徒については、専門機関との連携を図りながら生徒の適性・能力を把握し、職場実習を実施し、進路実現を支援する。</p>	<p>(1) ア・生徒向け学校教育自己診断の進路学習及び進路情報に対する満足度70%以上をめざす (H29年度 67%) ・卒業後に自己実現のための準備に備えるもの以外の進路未決定率4%以下をめざす。(平成29年度 5%) ・職業観育成プログラム参加希望35名以上 (H29年度 36名) ・就職希望者のうち学校斡旋就職希望者70%以上 (H29年度 68%)</p> <p>(2) ア・週2回以上「朝学」を実施。 ・放課後の「ゆめ学」受講率を前年度以上にする。 (H29年度 9%) ・資格検定試験受験率、合格率前年度以上をめざす (H29年度：受験率30%、合格率31%)</p>	<p>(1) ア・系統的なキャリア教育を進め、自己実現を支援できるよう取り組んでいる。生徒向け学校教育自己診断の進路学習及び進路情報に対する満足度73.9%(○) ・卒業後に自己実現のための準備に備える者以外の進路未決定率3%である。(○) ・丁寧に事前指導を行い、インターシップ等、職業観育成プログラムに35名参加。(○) ・正規雇用就職に向けた進路指導を行った結果、就職希望者に占める学校紹介就職希望者は66%である。(△)</p> <p>(2) ア・1、3年生は週2回以上の朝学を実施、2年生は各HRで個別指導を実施。(△) ・進学希望者対象に、長期休業期間や放課後等に「ゆめ学」を実施。受講率は12%。(○) ・資格検定試験受験率21%、合格率16%で、ともに昨年度を下回っている。(△)</p>